

科目名 (科目番号)	医動物学演習 (時間割参照)	教員名 菊地 泰生	学科等	臨床検査	必修	履修年次	4
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	1	
			授業形態	演習	オフィスアワー	非常勤講師	
授業概要	寄生虫の分類と疾患との関係、各種寄生虫の生態・鑑別と疾患との関係、寄生虫検査法など、寄生虫学の基本を講義と実習を織り交ぜた演習形式で学習する。実習では、観察した結果を正しく解析し評価できる力を養う。						
目的・目標	目的:ヒトの内部および外部寄生虫の病害を学習し、診断に必要な知識と技術の修得を通じて、社会の健康と福祉に貢献する医療実務家としての能力を習得する。 目標:ヒト寄生原虫・蠕虫、並びに外部寄生虫または寄生虫媒介者としての節足動物の疫学や臨床の知識を修得し、寄生虫病の臨床的、公衆衛生学的意義を理解し、寄生虫病診断の正しい方法の選択および適切な診断能力を修得する。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	医動物学概要	到達目標:寄生虫の生物学的な位置付けを理解し、寄生虫学や衛生動物学を学ぶ上で必要不可欠な用語を習得する。国際的な公衆衛生学としての医動物学の位置付けを理解する。 学習内容:生物学的特徴、感染経路・生活史・病害性、世界情勢を含めた最新のトピック				
	2	消化管寄生線虫類	到達目標:蠕虫である消化管寄生線虫類の形態・生活史・病原性について習得する。				
	3	消化管寄生線虫類(実習)	学習内容:回虫、鞭虫、鉤虫、糞線虫を含む消化管寄生線虫について紹介する。				
	4	組織寄生線虫類	到達目標:蠕虫である組織寄生線虫類の形態・生活史・病原性について習得する。				
	5	組織寄生線虫類(実習)	学習内容:、バンクロフト糸状虫に代表されるフィリア症、アニサキスなどの幼虫移行症、旋毛虫について紹介する。				
	6	吸虫類	到達目標:蠕虫である吸虫類の形態・生活史・病原性について習得する。				
	7	吸虫類(実習)	学習内容:肝吸虫を代表とする消化管寄生吸虫、組織に寄生する肺吸虫症・住血吸虫症について紹介する。				
	8	条虫類・衛生動物	到達目標:蠕虫である条虫類の形態・生活史・病原性について習得する。ヒトに病害生のある衛生動物の形態・病原性・媒介する疾患について習得する。				
	9	条虫類・衛生動物(実習)	学習内容:日本海裂頭条虫を代表とする擬葉類、無鉤条虫等の円葉類、エキノコックス症について紹介する。ヒトを吸血するダニ類、ダニ類に媒介される疾患について紹介する。また、吸血昆虫についても紹介し、その媒介疾患についても紹介する。				
	10	消化管寄生原虫	到達目標:消化管に寄生する原虫類の形態・生活史・病原性について習得する。				
	11	消化管寄生原虫(実習)	学習内容:アメーバ類、ランブル鞭毛虫、クリプトスポリジウムなどの消化管寄生線虫について紹介する。				
	12	組織寄生原虫	到達目標:組織に寄生する原虫類の形態・生活史・病原性について習得する。				
	13	組織寄生原虫(実習)	学習内容:トリパノソーマ科原虫、輸入感染症として最も重要なマラリアについて紹介する。				
	14	寄生虫検査法	到達目標:各種検査法が、どのような寄生虫の診断に適しているかを理解し、その検査方法について習得する。				
15	寄生虫検査法(実習)	学習内容:糞便検査の方法、それによって検出される虫卵やシストを分類し紹介する。また、血液検査による免疫学的検査、塗抹標本の作製についての方法を学習し、PCR法やLAMP法による分子生物学的診断法についても紹介する。					
成績評価の方法・基準	対面・オンライン時共に:期末試験(80%)＋実習レポート(20%)						
教科書	最新臨床検査学講座 医動物学 第2版		平山謙二 著		医歯薬出版		
参考図書	図説人体寄生虫学 第10版		吉田幸雄 原著		南山堂		
教員からのメッセージ	毎回、各講義の最後に小テストを実施する。臨床検査技師国家試験を受験するものは必ず受講すること。オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。						